

# 先人の高みを目指し 歩んだ25年



## よみがえる芦屋釜

茶の湯釜の名品として古くから知られる芦屋釜。江戸時代初期頃に製作が途絶えて以後も、茶の湯の世界で非常に珍重されました。

芦屋町では、平成元年の「ふるさと創生事業」を契機として芦屋釜を復興することが決まり、平成7年5月1日、芦屋釜の里を開園しました。

本年度は、芦屋釜の里の開園から25周年を迎えます。これまで、全国に残る芦屋釜を調査・研究し、その技術復元を図るとともに、鋳物師の養成に取り組んできました。また、町民の皆さんが豊かな文化にふれることができるよう、茶会やコンサート、町内の保育所（園）、幼稚園、認定こども園、小中学校の体験茶会などを行ってきました。

今回は、芦屋町の宝である芦屋釜の素晴らしさをもう一度知ってもらおうとともに、芦屋釜の里の25年の歩みを振り返ります。

1



## もう一度知りたい芦屋釜

芦屋津金屋から始まった歴史

芦屋釜とは、筑前国芦屋津金屋（現在の芦屋町中ノ浜付近）で、南北朝時代頃から造られ始めた鉄製の茶の湯釜です。室町時代には京で人気を博し、室町幕府8代将軍足利義政にも芦屋釜が献上された記録が残っています。しかし、芦屋鋳物師最大の庇護者であった守護大名大内氏の滅亡や、京での釜造りの隆盛により、江戸時代初期頃には、その製作が途絶えたと考えられます。

### 魅了される芸術的な美しさ

芦屋釜の最大の魅力は形と文様です。形は「真形」とよばれ、最も正式な形です。具体的には、口が縁口（湾曲した口造り）、肩はなだらかで、胴部に羽がめぐります。羽は打ち欠かれたものもあります。持ち運びのため

の鑢を通す鑢付とよばれる部分には、厳しい顔の鬼面が表されます。

芦屋釜の釜肌は鯨肌とよばれ、胴部にさまざまな文様が描かれます。鉄の茶の湯釜の胴部に美しい文様を入れたのは芦屋釜が初めてでした。それが京で人気を博した最大の理由だったと考えられます。

### 最高難度の技術を持つ鋳物師

芦屋釜は鉄ですので、重いイメージがありますが、持つてみると案外軽いです。その理由は薄いからです。おそらく、使い勝手を考慮し、軽さを求めたのでしょう。古作の芦屋釜の調査から、胴部の厚みは2ミリメートルから2.5ミリメートル程度であることがわかりました。鋳物は土でできた鋳型の隙間に溶けた鉄を流し込んで形にしますが、その隙間が2ミリメートル程度ということでした。鋳物で

は極限の薄さであり、それを可能にした芦屋鋳物師の技量は非常に高かったと言いうことができます。

### 四百年を超え衰えぬ人気と評価

室町時代には京で一世を風靡した芦屋釜でしたが、製作が途絶えた後、どのような評価がなされたのでしょうか。江戸時代以降も、一流の茶会には芦屋釜が使われました。

例えば、東京の大師会と並んで東西の双壁とされる京都の大会「光悦会」では、昭和25年から平成元年まで、芦屋釜が使用された回数は82回、2番目に多い与次郎（利休の釜師）は34回でした（小田達也、『茶道雑誌』平成22年2月）。その人気の程を知ることができます。

また、国指定重要文化財の茶の湯釜9点のうち、8点を芦屋釜が占めることから、その評価の高さが分かります。



9



10



11



7



8



6

5

### 写真の解説

- 1 芦屋霰地真形釜 室町時代
- 2 鋳型へのへら押し
- 3 鋳型を組み上げる
- 4 鉄を溶かす
- 5 溶けた鉄を杓に受ける
- 6 鋳込み
- 7 鋳造後湯口を整える
- 8 釜出し
- 9 復元された芦屋釜（浜松岡真形釜） 樋口陽介作
- 10 鐘の鋳込み
- 11 芦屋釜の里で製作した鐘

# 命を吹き込む

## 釜の鑄込み

茶の湯釜の鑄込みは、鑄物師にとって最も緊張する特別な瞬間です。

鑄物師たちの仕事は、普段は地味です。土をふるったり、木炭を割ったりする下仕事に始まり、釜の形や文様の構想を練って、長い時間をかけて鑄型を造ります。鑄込みは数カ月一度。実際の流し込みは数秒。しかも、必ずしも成功するわけではありません。だからこそ、釜に命を吹き込むこの瞬間を、鑄物師たちは大切にしています。

## 技術を伝える

芦屋の先人たちが生み出した、美しさと軽さを備え持つ至高の茶の湯釜である芦屋

釜。芦屋釜復興工房では、これまで芦屋釜の製作技術の解明を図りながら、復元に挑んできました。

その歩みは、芦屋釜の里が開園した平成7年から3年間、茶の湯釜の人間国宝、角谷一圭さんかたがひらひけにお願ひし、技術指導者として弟子の三浦一孝さんを派遣してもらったことに始まりま

す。芦屋町が雇用した鑄物師の遠藤喜代志さんは、その技術を習得し、さらに芦屋釜の技術解明を図りました。それら受け継いだ技術を確立し、次世代へ継承するため、芦屋釜の里では16年間の期間を設け、鑄物師を養成しています。その養成期間を終え、平成25年度には八木孝弘さんが独立し、令和3年度には樋口陽介さんが独立する計画です。



## 最高級の茶釜を目指して

釜の里が25周年を迎え感無量の思いです。設置者もそこで働く作業員もすべてが全く新しい体験で、それでいて茶道界における最高級の茶釜を造り出そうというわけですから今考えるとまさに「無謀」のひとつことでした。

角谷一圭先生と西村強三先生がおられたお陰で何とか社会的評価を得ることができたことを忘れてはいけません。釜自体は、いわば鉄の鑄造品ですので何度も試行錯誤を重ねていけば徐々に完成度を上げることが出来ます。しかし、芦屋釜は特に胴に描かれた文様に深い情緒が込められていて、これを我が物にするのは簡単なことではありません。

私の後に八木孝弘と樋口陽介という若者が、私以上の熱意をもってこれらの課題に取り組んでいます。厳しくも温かい目で彼らを見守っていただければ幸いです。



元芦屋釜の里工房指導者  
遠藤喜代志さん(写真左)  
※写真右は角谷一圭さん

工房在職期間  
平成7年度～平成16年度

芦屋釜復興工房に関わる  
皆さんからのひとこと



鑄込み 八木孝弘（左）、樋口陽介（右）

## 技術を次の世代へ

※角谷一圭：国指定重要無形文化財「茶の湯釜」保持者（人間国宝）。

※西村強三：元芦屋釜の里研究員。元九州歴史資料館学芸二課長。金工の美術品に精通。

偶然芦屋釜の里を訪れたことが縁で、平成9年より芦屋釜復興工房で修業することになりました。基礎的な技術を習得し、平成16年頃から重要文化財の芦屋釜復元に取り組み始めましたが、その頃が最も大変でした。釜の薄さや和銚わすく（砂鉄から取り出した鉄）に苦戦し、なかなか鑄造が成功せず、先人の技量の高さを痛感しました。ようやく形になるようになった頃、失敗できる環境のありがたさについて深く考えるようになりました。

偉大な功績を残した先人たちと同じように、当たり前のようにこの町で妥協のない鑄物製品を造り続け、その技術を次の世代へつなぐ、これが芦屋町への恩返しになると考えています。



芦屋釜の里工房指導者  
八木 孝弘さん

工房在職期間  
平成9年度～平成24年度

# これまでの取り組みと 近年の出来事



抹茶点て体験



開園 20 周年記念芦屋町民茶会



夏休み鑄物体験



おもてなし講座



さくらコンサート



夏休み茶道寺子屋



茶花講座



芦屋室町茶会



子ども茶会



平成7年 開園当時の庭園

## 伝統文化が町の魅力に

芦屋釜の里が開園して四半世紀。町民の皆さんや芦屋町茶道協会、そのほか多くの人の協力により、これまで茶会や講座、町内の保育所（園）、幼稚園、認定子ども園、小中学校の体験茶会、鑄物体験などを行ってきました。開園当初に体験茶会に参加した子どもたちが大人になり、その子どもたちがまた体験茶会に参加するようにもなりました。

現在では、芦屋釜や茶道、鑄物が地域の特色の一つとなっています。

## 芦屋町の名を全国に



工房業務従事者  
堀内 快さん  
工房在職期間  
令和2年度から

私は平成17年に工房に入りましたが、釜造りだけでなく、響愛の鐘や芦屋橋のレリーフ製作などにも関わりました。さまざまな技術を学ぶことができたことは、大切な経験となりました。

近年は県内外から茶人や観光客が訪れたり、国内外から鑄造関係の研究者も来られたりするようになりました。芦屋釜を生んだ芦屋釜の里が少しずつ知られてきていることを実感しています。

私は令和3年4月、16年間の養成期間を終えて独立します。日本全国に再び芦屋の名がどろくよう、まい進したいと思っています。



鑄物師養成員  
樋口 陽介さん  
工房在職期間  
平成17年度から



平成 30 年 中華人民共和国・程永華駐日大使来園



平成 27 年 表千家へ釜寄贈  
而妙齋御家元宗匠 (左)



平成 30 年 悠久のシルクロード大  
新茶祭 アジア 4 カ国の伝統茶披露



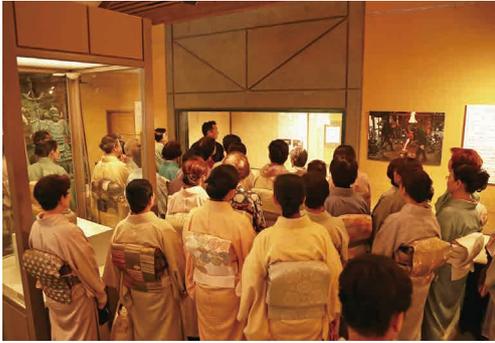
令和元年 泉屋博古館・台湾中  
央研究院と研究協定を締結



平成 25 年 裏千家へ釜寄贈 宗家の伊住禮次  
朗さん (左)、波多野町長 (中)、八木孝弘さん (右)



平成 26 年 表千家家元一行来園 猶有齋宗匠  
(左)、而妙齋御家元宗匠 (右) と波多野町長 (中)



令和元年 表千家同門会全国大会

※肩書はすべて当時



令和 2 年 現在の庭園

芦屋釜の里では、芦屋釜復興のさらなる推進を図るため、鋳物師の独立支援や養成を進めます。  
また、町の皆さんの身近な場所として豊かな文化にふれる機会を提供できるよう、引き続き、茶会、講座、コンサートなどの取り組みを行います。  
芦屋釜が皆さんにとって、地域を誇りに思うシンボルとなり、それを次世代へつなげることができるよう、次なる歩みを進めていきます。

令和時代も歩み続ける

## 芦屋釜の里 開園 25 周年記念イベント

### 芦屋釜の里開園 25 周年記念特別展

茶の湯釜の美  
～住友コレクションの名品と復興芦屋釜～

住友家の茶の湯釜コレクションの名品と復興芦屋釜を特別展示。春季と秋季に分けて公開します。多くが九州初公開の作品です。

▷会期

【春季展示】 5 月 19 日(木)～6 月 21 日(日)

【秋季前期】 9 月 15 日(木)～10 月 25 日(日)

【秋季後期】 10 月 27 日(木)～12 月 6 日(日)

※会期は都合により変更になることがあります。

▷問い合わせ 芦屋釜振興係 (☎223局5881)

## 故郷を離れ芦屋町へ

本年 4 月から芦屋釜復興工房で修業することになりました。出身は石川県金沢市で、富山大学で鋳金を学びました。学生時代に一度芦屋釜の里を訪れ、工房の方の話を聞く機会があり、それが縁で採用試験を受けることとなりました。芦屋釜の里は釜造りだけでなく、さまざまな鋳造実験もあり、学ぶことが多く楽しんでいます。

故郷を離れ芦屋町に住んでみて、川沿いの町並みがすてきだと感じました。気候も温暖で、とても住みやすい町だと思います。芦屋の風土を感じながら、とにかく精一杯、鋳物の技術習得を頑張ります。